

## 2021 年度秋季大会 開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

開催日：2021 年 11 月 27 日（土）・28 日（日）

会場：オンライン開催

日本語教育学会では、最新の研究と実践の成果の発信・共有や、参加者間の交流・ネットワーキングの促進を目的とした大会を年 2 回（春・秋）開催しており、大会委員会はその企画・運営を行っています。新型コロナウイルス感染症の流行が続くなか、昨年度の秋季大会、今年度の春季大会に続いて、今大会も全面的にオンラインでの開催となりました。有料イベントへの事前参加登録者は 1,019 名（招待・関係者含む）で、47 都道府県および世界の 45 の国・地域からの参加がありました。

今年度の秋季大会では、パネルセッション 3 件、口頭発表 32 件、ポスター発表 17 件が、審査・運営協力員の協力を得て行われました（詳細は右記をご参照ください。[大会プログラム](#)／[発表要旨](#) 大会予稿集も [こちら](#) から購入可能です）。当日までの流れとして、大会特設ホームページ上に配信された各発表のオンデマンド・ビデオおよび資料（ポスター等）を、事前に参加者に視聴・閲覧のうえ、質問提出をしていただきました。そして、大会当日の同期型会議システムを用いたリアルタイムの質疑応答では、発表者から事前質問への応答、続いてフロアからのチャット・口頭による質問やコメントへの応答を行いました。各発表会場では、この流れを通して内容が深く掘り下げられ、充実した議論が行われました。

このほか、一般公開プログラム「外国人介護労働者のキャリアとことば」（社会啓発委員会）、「わかばさんいらっしやい／ぷらさ da わかば」（チャレンジ支援委員会）、地域発信企画「つながり、広がる日本語教育—北陸地域における多様な連携・協働のカタチ—」、交流ひろば（支部活動委員会）、研究倫理セミナー：研究とその指導に必須の注意事項（調査研究推進委員会）、日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでのくらし」説明会（文化庁）なども同時開催されました。これらの企画でも、小グループの意見交換の場が設けられる等、オンラインの特徴を生かして進められました。

今大会は、昨年度、秋季大会のオンライン実施に向けて組織されたワーキンググループから大会委員会が全面的に業務を引き継いで実施いたしました。準備段階では、これまでのオンライン大会で参加者からいただいた課題を検討し、パネルセッションの時間延長、質疑応答の手順と資料の提示に関する変更等を通して、より円滑な進行を目指しました。今大会のアンケートでいただいたご意見も、今後の



口頭発表	会場 1 当日Zoom	会場 2 当日Zoom	会場 3 当日Zoom
9:30-9:50	①多文化共創授業における用語話者の意識変容—オンライン上の日本語学習者との関わりから— 横田和子 録画 質問 予発表	②日本語学習者の授課動向における履修形式の増進形態—履修動向調査— 佐々木望子 録画 質問 予発表	③失われた国境—ベトナム共和国が築いた日本語教育—1970年代のサイゴンからの継承— 平田好 他 録画 質問 予発表
10:00-10:20	④日本語得話者と非母語話者による、わかりにくいと感じる文の比較—「システム仕組書」を使ったアンケート調査から— 大崎優一 録画 質問 予発表	⑤短期間の会話データによるヘッジ表現の習得過程—中間言語習得の観点からの考察— 畑田賢子 録画 質問 予発表	⑥日本語学習者の「できたこと」の振り返りに対する認識と振り返りの内容の整理についての考察—中国・広東省の高等教育機関での実践と異質性調査から— 元山大貴 録画 質問 予発表
10:30-10:50	⑦中国人日本語学習者の意見文における論証 市川幸子 録画 質問 予発表	⑧中国人中上級日本語学習者のナラティブにおける評価方略の使用実態—出版履歴と評価対象を中心に— 陳露 録画 質問 予発表	⑨学習者の深いアプローチにつながるLTD 基盤型授業—JFL 環境における日本語学習者を対象として— 田中節子 録画 質問 予発表

大会の企画運営面の改善に生かしてまいります。

次回の春季大会は、2022 年 5 月 21 日（土）・22 日（日）に、全面オンラインで開催の予定です。

（文責：大会委員会）